

昨年度はACCESSの基礎と応用を「さら〜っと」教えてもらった。
先生によると、ACCESSというデータベースソフトは奥が深く、
“業務”をまるごと作り上げるようなこともできるという。
そこで、せっかく教わるなら自分の仕事に役立つように
“運用実績管理業務”を作ってみようと考えた。
目標は年度末の完成！（なんて、公言してイイのかなあ…）

第3回

これは、アクセスにあくせんす(悪戦す)る苦闘の日記である。(^^;))

前回までのあらすじ

ACCESSで業務処理を完成させる！と決意した野口は、システム部門の1年先輩に教えを乞う。先輩は毎回ヤキニクを奢ることを条件に、手取り足取り教えてくれることになった。

(^^;)ヤキニクベントウでゴマカシテ…

現状業務の集大成である帳票をもとに、先輩が始めたことはなんだかACCESSと関係なさそうなコトばかり。でも、第1ステップで項目の洗い出しと「繰り返し」の分解、第2ステップで一部のキーだけに従属している項目を分離、などしているうちに、ACCESSの「テーブル」らしきものが出来つつある。パソコンにちっとも触らないことに不安を感じつつ感心する野口。果たして業務システム構築のゆくえは如何に？

6月X1日

野口：「先輩、今日は何を教えてくれるの？」

先輩：「第3ステップをやりたいんだけど、その前に…」

野口：「もう焼肉!?いつから前払いになったの？」

先輩：「違うっ！項目の洗い出しでまだ確認していないものがあるの！説明を先にするので飛ばしちゃったんだけどね。これだよ、“ベンチマーク”、“政策アセット”、“乖離幅”、これについて検討しなくちゃいけないでしょう？」

平成××年××月

運用実績報告〔月間〕

(単位:百万円)

ファンド名	総合収益 (百万円)	月間 収益率(%)	資産区分別 収益率(下段:超過収益率)				時価総額	国内債券					外国債券	外国株式	短期資金等
			国内債券	国内株式	外国債券	外国株式		全体構成比	下段:(受託資産内構成比)(%)						
信 三ツ星信託銀行	132	0.97	-0.22	0.35	2.18	4.07	13,718	4,232	4,789	2,021	1,987	689			
			0.10	-0.25	-0.13	-0.30	21.24	30.85	34.91	14.73	14.48	5.02			
基金計	544	1.53					32,04	20,49	20,87	6,460	7,960	1,232			
							100.00	25.26	30.63	18.21	22.43	3.47			
ベンチ マーク			6.07	-0.32	0.60	2.31	4.37	26.00	30.00	18.00	22.00	4.00			
							乖離幅->	-0.74	0.63	0.21	0.43	-0.53			

野口：「ああ、これね。まあ、たいしたコトはないんですけど…」

先輩：「そういうアイマイな感覚じゃだめ！業務システムを設計するときは、専門家と協働作業なんだから、自分だけわかっているコトをおもてに出すことが大切なんだ。ギョーカイ用語とか、仲間うちではジョーシキというのでは、誤解を持ったままシステムが構築されて、実際に稼動してから意識のズレ、あるべきチェックがない、重要なことが前面に出てこなくてどうでもいいような情報ばかり画面化されている、なんてことがザラに起こるんだよ。きちんと用語や内容、意義なども含めて、できたら紙に落として誰でもわかるようにしておくべきだね。」

野口：「は〜い。要は“コミュニケーション”が大切、ね。久しぶりに先輩のお小言を聴きました。」

先輩：「わかればよろしい。では、“ベンチマーク”って何かな？」

野口：「実りはあ、話せばあ長あいことおながらあ…」

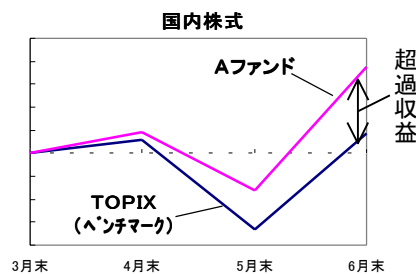
先輩：「わっ！急に語り口調になるなっ！気味悪い〜!!、簡潔にしろ簡潔に。」

野口：「(^^)こんな感じかな…」(次ページ図参照)

ベンチマーク & 超過収益

ベンチマークの種類と4月の実績

資産区分	市場指標(ベンチマーク)	3月末	4月末	騰落率
国内株式	TOPIX配当込み(東証公表)	1340.2	1348.2	0.60%
国内債券	野村-BPI(総合)	293.5	292.6	-0.32%
外国株式	MSCI コクサイ	973.5	1016.1	4.37%
外国債券	シティグループ世界国債インデックス	254.4	260.3	2.31%
為替	為替レート(¥/\$・ロンドン16時)	104.0	110.4	6.07%



先輩:「へ～え。これがベンチマークか。」

野口:「左の表を見てくださいね。株式や債券などの投資資産には売買の市場があるんですよ。市場全体の動きについては、信用のある機関が市場指数というのを毎日発表しているんですね。年金の場合は、一般的に国内株式はTOPIX(トピックスと読む)、国内債券は野村-BPI、などと決めてあるんです。」

先輩:「そういえば、NHKのニュースでも『今日の全銘柄の値動きを示す東証株価指数TOPIXは、〇〇〇.〇』などと言っているよね。表には3月末の数値と4月末の数値があるから、これで市場が上がった下がったなどというわけなんだね。」

野口:「ついでに、右のグラフを見てください。青い線が4月から6月のTOPIXの収益率です。赤い線はAファンドの収益率の実績。見てわかるようにAファンドの運用成績はTOPIXつまり市場より良い、と言えますね。この収益率の差を“超過収益(率)”と言っています。」

先輩:「なるほど。それじゃ、前ページの報告書の“ベンチマーク”の欄にある数値が、その期間の市場の収益率(騰落率)なんだね。わかりました。」

野口:「データベースではどのような扱いになりますかね?」

先輩:「独立した管理項目でしょ。当然システムで扱うときは“ベンチマークID”というキーをつけたほうがいいと思うね。今までの作業を思い出して“リレーション”を作ってみてごらん。」

野口:「へえーい。(人使い荒いなあ。手取り足取りじゃなかったっけか……)」

野口:「どうですか?赤字が追加した項目です。」

先輩:「資産区分のリレーションに“ベンチマークID”と“ベンチマーク名”を追加したんだね。ちょうどいいや、第3ステップの説明をしよう。」

第3ステップ

キー以外のデータ項目で、一方のデータ項目の値が決まると他のデータ項目の値も決まるような関係の項目を分離する。

資産区分

**	資産区分コード
**	資産区分名
**	ベンチマークID
**	ベンチマーク名

ファンド/資産区分/年月

**	ファンドコード
**	資産区分コード
**	年月
**	収益率
**	ベンチマーク収益率
**	超過収益率
**	時価総額
**	構成比

野口:「また、『分離』ができましたね。」

先輩:「資産区分のリレーション中で、“ベンチマーク名”は“ベンチマークID”が決まると、その他の項目に関係なく値が決まる。このような項目を別のリレーションとして分けるのが第3ステップなんだ。そして、元のリレーションに残る項目を“外部キー”と言うんだ。」

野口:「なるほど。」

先輩:「それと、“ベンチマーク収益率”は独立だね。第2ステップの主旨からいうと、ここには入らないよ。少し直させてね。」

ファンド		総合収益		資産区分		ファンド実績	
**	ファンドコード ファンド名	**	ファンドコード	**	資産区分コード	**	ファンドコード
		**	年月 総合収益	*	資産区分名 ベンチマークID	**	資産区分コード
						**	年月 収益率 超過収益率 時価総額 構成比
ベンチマーク		ベンチマーク実績					
**	ベンチマークID ベンチマーク名	**	ベンチマークID				
		**	年月 指数値 収益率				

先輩:「赤が追加・修正したリレーションね。リレーション名も妥当と思うものに替えてみたよ。」

野口:「むう。やっぱりベンチマークの収益率はファンドの実績には入らないのかあ。」

先輩:「同じ収益率がどこのファンドにも登録されてしまうでしょ。さて、最後は『政策アセット・乖離幅』だね。説明してください。」

野口:「右の表が『政策アセット』です。基金全体の資産配分を規定しているもので、実際の資産時価がこの比率からズレないように管理することが大切とされています。時価ブレが、表の上限や下限を超えた場合はこれを調整するようなアクションをとることになります。」

先輩:「なるほど。それで月次帳票で各資産の時価が政策アセットからどのくらい乖離しているかを表示しているんだね。よくわかりました。じゃあ、もう慣れたと思うから自分でリレーションを作ってみて。」

野口:「へえ〜い。(なんだやっぱりみんなやらせるきじゃん。手取り足取りはどうだったんだよお(TT;))」

政策アセット

資産区分	政策アセット	乖離幅	
		下限	上限
国内株式	27.0%	22%	32%
国内債券	22.0%	17%	27%
外国株式	23.0%	18%	28%
外国債券	20.0%	15%	25%
短期資産等	8.0%	3%	10%
合計	100%		

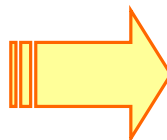
ファンド		総合収益		資産区分		ファンド実績	
**	ファンドコード ファンド名	**	ファンドコード	**	資産区分コード	**	ファンドコード
		**	年月 総合収益	*	資産区分名 ベンチマークID	**	資産区分コード
						**	年月 収益率 超過収益率 時価総額 構成比
ベンチマーク		ベンチマーク実績		政策アセット			
**	ベンチマークID ベンチマーク名	**	ベンチマークID	**	資産区分コード		
		**	年月 指数値 収益率	**	政策アセット 下限 上限		

先輩:「よくできました。なかなかそれらしい形になったじゃない！それじゃ…」

野口:「はいはい。ヤキニクでしょヤ！キ！ニ！ク！で！しょっ！」

先輩:「ヤケになってない？ねえねえ、たまにはデイリーヤマザキの焼肉弁当じゃなくって、本格的なところに連れてってほしいな。」

野口:「…じゃ、コレ(デイリーヤマザキの焼肉弁当)レンジであつためるといっそうおいしいでゴザイマスよ！(^_^;)」



To be continued...

< コーヒーブレイク >

先:好景気は持続するのかな？株価はまだまだ上昇するのだろうか。

野:テクニカル・アナリストの有名な方が、「超長期の上昇波動に乗りつつある。」と言っていますね。シンクタンクの試算では、団塊の世代の大量な離職によって、日本企業の利益率が大幅に上昇するということだし、当面は悪材料というほどのものはないんじゃないかな。

先:先生、じゃあ国内株式は“買い”ですかね！？

野:そういう聞き方をする人っていうのは、リスクに対する心構えが全然できていないと思うな。

先:そうなの？

野:なぜって、最後の決定を人の発言に求めているじゃない。ほんとうの投資家って、いろいろな情報を自分なりに解釈したうえで、自分の責任で“黙って”決めるものだよ。どんな情報があっても、結局先のことは不確実なんだから、間違ったときはこうなるということまで納得して買うんだよね。

先:ふう〜ん。でも、やっぱり専門家には頼りたくなるじゃない。

野:米国の有名なファンドマネジャーが、素人の投資家でもプロのファンドマネジャー以上に、自分の身近にある会社について知ることができる、と言っている。むしろ、プロとアマの根本的な差は、リスクに対応する技能・知識にあるんだと思うけどね。

先:ところで、キミは株を買ったりするの？

野:年金基金の担当者が証券投資すべきじゃない、と思っているからね。株式投資は老後の楽しみにとっておくつもりだよ。

先:... 化石みたいな人だね、キミって。ところで株はやっぱり買いどき？ (@@;)

野:先輩！人の話聞いているの？ □(〜;)□ヤレヤレ...